

ち いきがっこうえんとくしょげっかん 地域学校園読書月間

- 11月1日（水）～30日（木）は、陽東地域学校園読書月間です。この期間中は、
- 各校で、本の貸出冊数が増えます。
 - 4校共通のイベント「読書ビンゴ」を開催します。

どくしょ 読書ビンゴ

今年の読書ビンゴのテーマは「物語グルメ」です。コラボ給食では、国語の教科書に出てくる食べものが登場します。教科書で紹介されている本や、その作者の関連図書を読み、様々な本に親しみましょう。

3	6	9		4
0	7	2	5	8
4	9		3	1
	4	8	7	6
7	1	5	2	9

どくしょ
読書ビンゴ

11/1～11/30

ねん 組 名前

ひだり すうじ ぶんるいばんごう
• 左の数字は分類番号です。

すうじ ぶんるい ほん
• 数字のマスはその分類の本を、のマスは のシールが貼ってある本を借りるとスタンプを押します。

• ビンゴになると貸出冊数が増えます。

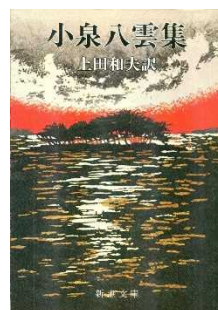
※これは見本です。

ビンゴの用紙は今月末に配られます。配られたら無くさないように大切に管理しましょう。

また、ビンゴについて詳しく知りたい人は図書室の先生に聞いてください。
たくさん本を借りてビンゴを目指しましょう！

こくご きょうかしょ で ほん さくしゃ ほん 国語の教科書に出てくる本・作者の本

国語の教科書に出てくる本・作者の本には、本の背に、
右の「こくごの教科書」シールが貼ってあるので、それを
ヒントに本を探してみてください。



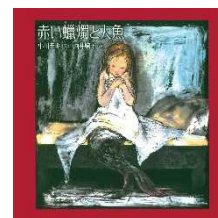
『小泉八雲集』

小泉 八雲／著 新潮社

9月26日は小泉八雲の命日でした。日本の怪奇話として広く知られた『雪女』や『ろくろ首』、『耳なし芳一』などは、小中学生の皆さんも過去に見聞きたことがあるのではないのでしょうか。背筋も凍る恐ろしい話もたくさんありますが、日本の古い物語を、さらに創造力豊かに語った小泉八雲作品を他にも読んでみませんか。短い時間で1つのお話が読めます。（陽東中）

『赤い蝋燭と人魚』

小川 未明／文 酒井 駒子／絵 偕成社



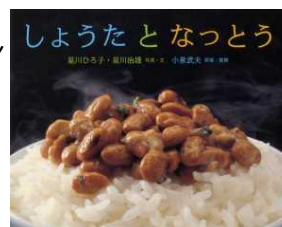
冷たく暗い北の海に、人魚が棲んでいました。「人間の住む町は美しく、人間は、魚より獣物より、この世界でいちばんさしいものだ」と聞いたその人魚は、おなかの中にいる自分の子どもを陸で産み落とします。ろうそく売りの老夫婦に拾われた人魚の子は、大切に育てられ、美しい娘となりますが、ある日、老夫婦のもとへやってきた香具師が、「大金を出すから、人魚を売ってくれ」と頼みます……。

『14ひきのおつきみ』

いわむら かずお／作 童心社



14ひきがみんなで協力してお月見台を作るところから話が始まります。お月見台を作るときの山のなかは鮮やかなやわらかい黄緑で、お月見台が完成に近づくにつれてきれいな茜色の夕焼けに、そして夜がやってきます。色の移り変わりがとっても美しく、すごくすきな本です。ねずみの家族たちのやりとりもほっこりします。なんで薄い紺色で夜なのかなと思いましたが、これはお月さまの光がきれいに光から真っ黒じゃないことに気が付きました。色の移り変わりで時間の変化を楽しみながらこの本を読んでみてください。（峰小）



『しょうたとなっとう』 星川 ひろ子・星川 治雄／写真 文 ポプラ社

納豆嫌いのしょうた君。私も子どもの時は納豆が嫌いだったので、気持ちはわかります。でも今は大好き！おじいさんがしょうた君を大豆畑に誘います。おじいさんの仕事を手伝っていくうちに、大豆がいろいろな食材にへんしんしていくのが分かります。そしてついにしょうた君の嫌いなアレにも……。しょうた君は美味しく食べられるかな？ぜひ、読んでみてください。（陽東しょう）